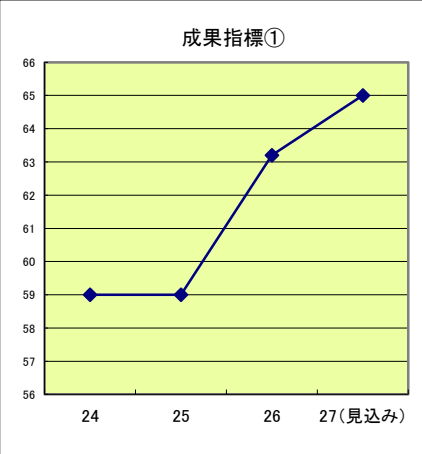
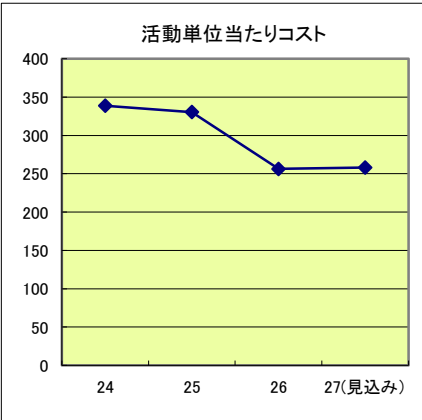


事務事業名			公共施設循環バス運行事業		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	5	信頼に基づく市民とともにつくるまち			款	2	総務費	
	施策(節)	3	行財政運営			項	1	総務管理費	
	施策の方向	(4)	効率的な施設運営			目	6	財産管理費	
関連する計画等					事業	2	車両管理		
					作成部署	総務部管財用地課			
					(連絡先)	072 - 958 - 1111 内線 1911			
事業の概要(目的・内容)			不特定多数の市民を公共施設へ送迎し、市民生活の利便の向上と福祉の充実を図る。市役所を起点に市内公共施設及び、各地区にある停留所を循環し、市民に無料で利用していただくサービスを提供する。						
根拠法令等									
事業期間			☒ 10年以上 ☐ 5年以上10年未満 ☐ 5年未満（平成 年度開始）						
事業開始時から の状況変化			平成4年2コース・5年4月3コース・6年4月4コース・10年10月クリーンピア便・16年4月陵南の森送迎バスと統合・19年6月道の駅しらとりの郷便増便						
実施手法			☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先			☐ 市外郭団体委託 名称()				委託内容		
			☐ 民間委託 ☐ その他						

区 分		24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		14,256	14,013	6,570	5,895
人件費【2】 (千円)		26,985	26,295	26,518	27,403
職員数	正規職員	0.65 人	0.55 人	0.50 人	0.50 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	9.00 人	9.00 人	9.00 人	9.00 人
	臨時職員・非常勤職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
超過勤務(参考) (時間)		0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		41,241	40,308	33,088	33,298
財源内訳	国庫支出金 (千円)	0	0	0	0
	府支出金 (千円)	0	0	0	0
	市債 (千円)	0	0	0	0
	その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0
一般財源【B】 (千円)		41,241	40,308	33,088	33,298
活動指標(事業の活動実績)【C】		24年度	25年度	26年度	27年度 (見込み)
① 年間総乗客数	人	121,718	121,943	129,114	129,000
② 1日の運行便	便	34	34	34	34
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①)		339 円	331 円	256 円	258 円
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】①)		339 円	331 円	256 円	258 円
市民1人当たりコスト (【A】÷人口)		352 円	346 円	287 円	290 円
一般財源【B】の推移(前年度比)			▲ 2.3 %	▲ 17.9 %	0.6 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ✓)		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 2. 左記1によらない対象件数などの増減			
		☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫支出金など特定財源の増減			
※該当項目すべてに✓		☒ 5. その他(平成26年度及び平成27年度バスの買い替えを行わないため。)			



成果指標 (事業の達成度)	指標名		単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	①	年間平均乗車率	%	目標	65	65	65
		(式又は説明) 乗客数÷座席数(204,152席)×100		実績	59	59	63
	②			目標			
		(式又は説明)		実績			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
		○		○	○		○			

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	午前便は常に乗車定員に近い利用があり、市民ニーズが高い事業である。また、近隣他市との比較では非常に充実した内容である。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	バスの台数及びルート数からは、最小限の人員で行っている。また、運転手は嘱託職員を採用し、人件費の抑制を図っている。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない	☒	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）	☐	☒	☐	
	協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☐	☐	☒	利用しやすさ等、可能な限り利用者の意見を反映している。
	有効性	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	目標は未達成ではあるが、目標値に近づいてきている。
	達成度	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	利用者数は若干であるが、増加している

担当部局評価	総合評価	
	☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 (概ね現行どおり継続して実施) (実施方法の改善を検討する) (事業規模の縮小を検討する) (廃止・休止を検討する)	
	今後に向けて(取組方針・具体的な改善改革案など)	
	現在の利用者の多くは公共施設循環バスとしての認識でなく、日常の公共交通機関として利用されている。そのような背景を踏まえ、今後は現行のサービスを維持するため、収入確保等を図ることにより経費の抑制に努め効率的な運行を目指す。また、成果指標を達成するため、更なる利用しやすさの改善を図ります。	
行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止	